徳洲会感染管理部会

感染管理実務担当者を養成

半年にわたるグループ内認定研修開講

徳洲会感染管理部会は 8 月 21 日、一般社団法人徳洲会（社徳）東京本部で 2026 年度感染管理実務担当者グループ内認定研修の開講式を行った。全国の徳洲会グループ病院から感染管理の実務に携わる 15 人の職員が参加。来年 2 月までの約半年間、対面式の集合研修（座学・演習・グループワーク）とオンラインでの研修を重ね、病院の感染管理に必要な幅広い知識や技術を習得していく。



「横のつながりを大切にしてください」と部会長の佐藤部長



螢光物質を汚染に見立て、ブラックライトで消毒状況を確認



一つひとつ手順を確認しながら、フルPPEの着脱を体験

同部会は 23 年度に「感染管理実務担当者 (ICP) 育成コース」を開始。昨年度からは、より実践に即した内容にブラッシュアップするなど刷新、現行の研修となった。旧 ICP コースから数え 4 年目となる。

感染管理認定看護師の教育コースに準拠した内容で、感染管理の実務者として必要な知識・技術を体系的に学べるのが特徴。専門知識をもつ同部会執行部メンバーらが講師を務める。

開講式では冒頭、部会長である佐藤守彦・湘南鎌倉総合病院 (神奈川県) 感染対策室部長が「4 年目を迎え、部会として感染管理の実務担当者を養成する研修会の運営に関して、だいぶノウハウを確立することができました。ぜひ、しっかりと予習をしたうえで受講し、興味をもった分野に関しては、皆さん各自で、より深掘りして学んでいただければと思います。また横のつながりを大切にしてください。閉講式を迎える頃には、自信をもって感染対策の実務に臨めるようになっていることを期待しています」と挨拶。

続いて社徳医療安全・感染管理部の深野明美部長が「皆さんには、ぜひ、ここで学んだことを、それぞれの病院で広げていただきたいと考えています。感染管理はひとりではできることに限りがありますので、病院の感染対策のメンバーと共有し、感染対策の基盤づくりや質の向上に取り組んでいっていただければと思います」と呼びかけた。

同研修会には部会執行部として、副部会長の伊藤恭子・福岡徳洲会病院看護主任（感染症看護専門看護師）、副部会長の松田有司・高砂西部病院（兵庫県）感染対策室長（感染制御実践看護師）、鹿児島徳洲会病院の仮重喜代美・看護師長（感染管理認定看護師）、館山病院（千葉県）の杉田雅央・看護師長（同）、近江草津徳洲会病院（滋賀県）の宇野友美・看護主任（同）が参加し、講師を担ったり、進行をサポートしたりした。

開講式の後、「感染対策の基礎知識（標準予防策）」をテーマに、南部徳洲会病院（沖縄県）の安里千尋・感染管理認定看護師が、医療現場での感染源、標準予防策の実践項目（10 項目）、手指衛生などについて講義。この後、日鋼記念病院（北海道）の加藤美紀・感染管理認定看護師が「感染経路別予防策」をテーマに、接触感染や飛沫感染、空気感染の経路別に予防策などをレクチャーした。

後半は伊藤・看護主任を中心に執行部が講師を務め、PPE（個人防護具）着脱や手指衛生、定量的テスター装置を用いた N95 マスクのフィッティングテスト、輸液ラインのアクセスポートの消毒、集尿容器の回収や口腔ケアの感染対策などに関する教育的手法を学ぶプログラムを実施。ブラックライトに反応する螢光物質を含んだ手洗い評価キットなどを活用し演習形式で行った。最後にフル PPE の着脱訓練を実施。グループに分かれ一日の振り返りを行い、全体発表で共有し、この日の研修を終了。

伊藤・看護主任は「“感染対策は一日にして成らず”です。一滴の水を垂らすと波紋が広がるように、少しずつでも仲間を増やしていきながら、多職種を巻き込み、組織全体で取り組むことが大切です。そのためのアプローチの方法なども、学んでいっていただければと思います」と受講者にエールを送った。

帯広病院

地域の総合防災訓練に初参加
本番さながら300人が臨む



訓練ではドローンや災害救助犬、重機などを投入

帯広徳洲会病院（北海道）は8月21日、地元の音更町と町消防団が主催する総合防災訓練に初めて参加した。防災関連団体の連携強化を目的に、毎年、防災の日（9月1日）に合わせ訓練。今回は町内の消防防災庁舎コミュニティ消防センター屋外訓練場を会場に、帯広消防署や陸上自衛隊、地域の自主防災組織なども加わり約300人で行った。

訓練は台風による大雨を想定し実施。ドローンや災害救助犬、重機、チェーンソーを投入するなど、本番さながらに取り組んだ。

同院は沼田圭介事務長や伊藤志乃・看護部長らが、8月に音更町と締結した「災害時等における相互協力に関する協定」に基づき、福祉避難所として院内に要支援者を受け入れる手順などを確認した。伊藤・看護部長は「想像以上に参加人数が多いことに驚くとともに、日々の診療とは違う形で地域に貢献できる喜びを感じました」と振り返りつつ、「今後も地域の関係各所との連携をいっそう強化していきたいです」と意欲的だ。

武蔵野病院

歯科診療所と連携強化
医療連携懇話会を開催

武蔵野徳洲会病院（東京都）は 8 月 28 日、歯科を対象とする第 1 回医療連携懇話会を開催した。同院歯科口腔外科は北川善政・主任部長を中心に常勤医師 6 人体制と充実し、口腔がんや顎変形症、口腔顎顔面外傷など幅広い疾患に対応。地域の歯科診療所との連携をいっそう強固にし、地域医療の向上を図るのが狙い。約 40 人の歯科医師が参加し盛会となった。

冒頭、開会の挨拶で桶川隆嗣院長は参加者に謝意を表し、「当院の歯科口腔外科は非常にアクティブに診療を行っており、当院になくてはならない診療科です。ぜひ、今後も緊密な連携をお願いいたします」と同科の近況を交えながら呼びかけた。

次に、西東京市歯科医師会の浅野幸弘会長が「専門性を要する症例をいつもスムーズに受け入れていただけるため、安心して日々の診療を行えています。今後も病診の役割分担と連携がさらに進むことを期待しています」と挨拶。

続いて北川・主任部長が登壇。はじめに、北海道大学大学院教授（口腔診断内科学教室）などを歴任後、2024 年 4 月に武蔵野病院に入職した経緯に触れ、「これまで、できるだけ顔を切らずに口の中からアプローチする低侵襲な手術を心がけ実践してきました」と信条を語った。この後、「地域連携における当科の役割」をテーマに、さまざまな口腔外科疾患に対する術式や治療経過などについて、難症例を含む事例を挙げながら紹介した。



歯科口腔外科の充実した現状を紹介する桶川院長



多様な歯科口腔外科診療を説明する北川・主任部長

具体的には、エナメル上皮腫に対する口内法連続離断・腸骨移植による再建、反復開窓処置法、顎関節突起骨折に対する口内法による整復固定術、白板症や扁平苔癬などの口腔粘膜の潜在的悪性疾患、顎骨壊死への対応などだ。最後に田中良太副院長（呼吸器外科）が閉会の挨拶を行い、盛況裏に終了した。

TOKUSHUKAI Medical Assistance Team TMAT Non-Profit Organization

静看協榛原支部の災害看護研修で講義



トリアージの実習を行う受講者と久保・看護師長（左）

NPO法人TMAT（徳洲会医療救援隊）は8月29日、榛原総合病院（静岡県）で開かれた静岡県看護協会榛原支部の災害看護研修で講師を務めた。同支部が研修の講師をNPO法人に委託したのは初。徳洲会グループ内外の看護職80人が受講した。

当日は、TMAT隊員の高力俊策・東京西徳洲会病院院長補佐兼外科主任部長、柳澤修平・四街道徳洲会病院（千葉県）副看護部長、久保健一・湘南大磯病院（神奈川県）看護師長、佐藤哲也・湘南藤沢徳洲会病院（同）看護師がテーマごとに登壇した。

研修内容は、TMATが実施している「国内災害医療支援トレーニングコース」をベースに構成。まず、救急医療と災害医療との違いを説明し、そのうえで災害対応の標準手順「CSCATTT」(Command and Control:指揮と連携、Safety:安全確保、Communication:情報収集・伝達、Assessment:評価、Triage:緊急度・重症度選別、Transport:搬送、Treatment:治療)を紹介した。また、被災者を傷病人としてだけではなく生活者として捉え、生活環境を整えることの大切さも強調。2011年の東日本大震災では、約2万個の老眼鏡を配ったエピソードなどを披露した。避難所での災害関連死を防ぐ段ボールベッドの活用にも触れ、「最も困難な状況にある人のもとへ出向く」というTMATの原則を伝えた。

後半は、災害現場で多くの負傷者が発生した場合に用いるSTART法によるトリアージ（緊急度・重症度分類）をグループに分かれて演習し、多職種連携のポイントを伝えた。参加した看護師からは「ふだんの看護が災害対応の土台になると再認識できました。ハザードマップやトリアージなどを実践的に学べ、貴重な機会でした」と好評だった。

老健シルバーケア常盤平

小学生がハンドマッサージ体験



小学生が一生懸命に入所者さんにハンドマッサージ（左奥が岡村・総看護師長）

介護老人保健施設シルバーケア常盤平（千葉県）は 8 月 26 日、松戸市社会福祉協議会と協働し、夏休み子どもボランティア体験教室「高齢者施設でハンドセラピーをしよう！」を実施した。市内の小学 1 ～ 6 年生 10 人が、講師からハンドマッサージの方法などを学び入所者さんに実践した。

「開かれた施設として、地域貢献や交流を大切にしたいと考えています。ボランティア体験教室もその一環で実施しました」と岡村留美・総看護師長。今年度から年間計画を立て、健康維持体操の実施や地域の夏祭り会場の設営を手伝うなど、地域貢献活動に毎月のように取り組んでいる。

生徒たちはハンドクリームをのばして手のひらで温め、入所者さんの手の甲や指を念入りにマッサージ。「痛いところはありませんか」など声をかけながら丁寧に行った。入所者さんからは「気持ちいい。上手だね」など声が上がり好評。生徒からは「喜んでくれて、うれしかったです」など感想が聞かれた。

WEB医療講演スケジュール
Facebookで公開中！

徳洲会グループ病院では、さまざまなテーマで医療講演を開催している。オンラインで受講可能な講演を徳洲会グループのFacebookで公開中。当該病院のホームページで参加方法などを要チェック！